



# 札幌市自立支援協議会 子ども部会 ニュース №14

第14号（2026年3月）発行

札幌市自立支援協議会  
子ども部会事務局

## 令和7年度 子ども部会のまとめ（河内哲也部会長）

令和7年度は、これまでのZoom開催から対面での活動へと転換し、参加者同士の笑顔や活発な対話を通して、子ども期支援への思いを共有し、ネットワークを一層深めた一年となりました。例年実施している支援力向上セミナーでは、発達支援の基礎に加え家族支援に重点を置き、講義やグループワーク、シンポジウムなど受講者参加型研修を実施し、主体的な学びを促進しました。また、コロナ禍で中断していた巡回相談の関係機関交流会を再開し、分野を越えた連携の重要性を再確認しました。さらに、ライオンズクラブ様のご協力を得て「子どもを支える地域の力」をテーマとしたコラボ研修を開催し、約200名が参加しました。障がい分野の垣根を越えて学びを深めました。

今後も子どもの権利と強み、またご家族の想いを大切に、家族支援や地域連携、職員の専門性向上を図り、インクルーシブな地域づくりを進めてまいります。



## 関連会議からの報告

### 子ども子育て会議から

札幌市子ども子育て会議では、全体会や部会に出席しました。今後のインクルーシブ体制整備の提案として、児童発達支援センターの障害児地域支援マネージャーが各区の障害児通所支援事業所へ訪問し、連携や助言指導を実施しているが、市内の保育所やこども園等へも同様の支援を実施できる体制整備の必要性を訴えました。また、里親の認定についても意見を提案しました。（河内委員）

### 社会的養護・札幌市要保護児童対策協議会から

社会的養護関係は、令和7年度に子ども部会開催研修会を社会的養護関係施設の方々へ周知し、皆様にご参加いただき、ともに学びを深めました。また、日本子ども虐待防止学会の運営に参画し、社会的養護関係の支援者の方々とは情報共有を図りました。次年度も、社会的養護が必要な児童の支援について考えていきます。

札幌市要保護児童対策協議会では、全体会に出席しました。児童相談所が扱う虐待や養護に関する相談件数について障がいを有する児童の割合が示されていないので、相談件数の集計方法について検討していただくように意見を提案しました。（河内委員）

### 札幌市医療的ケア児支援検討会から

令和7年7月24日と令和8年1月27日に開催しました。7月の検討会では医療的ケア児等支援関連事業の報告と医療的ケア児等支援コーディネーターに対するアンケートについて情報共有を行いました。1月の検討会では講和の後、アンケート調査結果を共有し意見交換を実施しました。（下野委員）

## 令和7年度各区子ども部会の活動報告



### 《 手稲区 》

今年度は多職種連携に関する全2回の学習会を実施。9月は対面形式でリハ・心理職との連携、1月はオンラインで保育所等訪問支援をテーマとした。複数のスピーカーゲストからの実践報告やグループトークを行った。参加人数はそれぞれ61名、71名。

### 《 清田区 》

過去の全体会などで行った地域課題の抽出から運営委員会で整理した地域課題を踏まえ、今年度は児童期から成人期への移行支援をテーマに検討を重ね、令和8年2月の全体会の中で研修会を実施。今後は学校との連携や不登校支援についても課題整理を進めていきます。

### 《 白石区 》

今年度白石区地域部会では、全体会や交流会の機会を活用して、児童関連事業所との顔の見える関係作りと、地域課題や支援の実情等の共有を図ると共に、札幌市東部児童相談所のご協力のもとに研修会を開催し、来年度の子ども部会活動再開に向けた準備を行っています。

### 《 北区 》

北区内の事業所・相談室同士の繋がりを広げ、気軽に相談できる関係性を構築することを念頭に置き活動をしました。『みんなの「悩み」が私たちの「強み」になる』との考えのもと、普段なかなか他者に言いにくいみなさまの日頃のお悩みを共有し、その悩みを強みへと変えていくことを目的とした「事業所交流会」を3回開催しました。

### 《 厚別区 》

厚別区こどもチームは「こども」に関わる支援者たちが垣根なく支援ができる厚別区を目指し、交流茶話会を6月20日に開催しました。日頃関わっているこどもたちが学齢期を過ぎたあとに、どういった支援を受けているのか就労継続支援事業所の方にお話を伺い、後半は各自持参したお茶菓子を共有しながら、お互いの顔の見える関係づくりに向け和やかな雰囲気の中交流を深めました。

### 《 豊平区 》

豊平区地域部会では現在子ども部会は設置していないが、今年の3月4日には定例会で6つの児童系事業所紹介を企画しており、情報交換を行います。他にも地域課題の例会、防災マップ作成、広報誌への作品募集など、子ども系の参画を行っています。

### 《 南区 》

南区こどもチームでは、教育・保育・福祉それぞれの現場で子どもを支えるおとな達のつながりの場や機会を増やしていく事が先ずは大切だと考えて茶話会や研修会を企画してきました。現場の声を参考にして、南区の“いま”を知り、こども達や家族を地域で支えるチーム作りに挑戦しています。

### 《 東区 》

ウェルトークと題した学習会を「進学から就職へ」をテーマに2回行った。9月には障がいを持つ子の保護者、12月には様々な学生が通う教育機関の先生、それぞれの立場からお話をいただき、学びを深めるとともにグループトークを通して参加者による交流を行った。

## ≪ 西区 ≫

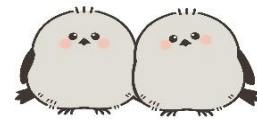
今年も、研修会会場は手稲養護学校三角山分校の体育館にて、学校施設を地域に開き、子ども支援者が集う学びの場として活用させていただいており、教育と福祉が協力しながら2回開催できた。西区ではキャッチコピー～『子どもたちの笑顔』ともに育む地域へ 西区子ども部会から、可能性の種をまこう～があり、このテーマのもとに次年度も活動を行ってきたい。（西区子ども部会 世話人会）



## ≪ 中央区 ≫

中央区では、障害児・者が共に学び交流できる定例会を開催しています。サービス種別を越えて相互理解を深め、新たな視点で情報交換を行い、区全体の支援の質向上と切れ目のない支援体制の構築を目指しています。

## 令和7年度 子ども部会活動報告



### ●運営会議

今年度の子ども部会運営会議は年3回行いました。

第1回運営会議では、部会長副部会長等三役の選出と運営委員の構成確認を行ったうえで、令和7年度の活動方針と取り組みについて確認しました。

第2回運営会議では令和7年度より始まった指定障害児通所支援事業者選定の結果を含めて共有する場を設けました。また就労選択支援の開始にあたって、就労支援推進部会より重泉氏に講師をお願いし、部会内学習会を行い委員の皆様からも積極的に質問がなされ、新たな制度の理解を深めることにつながりました。また、子ども部会が主催で行う学習会などの開催報告や進捗状況などの確認を行っています。

第3回運営会議では指定障害児通所支援事業者指定についての確認のほか部会内学習として札幌市の不登校支援の現状や取り組みについて確認しました。

### ●令和7年度 発達支援者支援力向上セミナー（初級コース）

9月2日に発達支援者支援力向上セミナー（初級コース）を開催しました。経験3年程度の支援者を対象に行い、社会福祉法人麦の子会の金澤地域支援部長より発達支援の基礎を学び、また、保護者の想いを聴いて家族支援の大切さ改めて考える機会となりました。最後は「仕事のやりがい」をテーマにグループワークで意見交換を行い、明日からの支援につながる有意義な時間となりました。多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。

### ●令和7年度 発達支援者支援力向上セミナー（中級コース）

児童福祉領域での経験が5年以上の職員向けの中級研修を12月15日に開催しました。行政・保護者事業者の方より、発達支援を必要とする子どもの課題や自立(社会参加)に必要な支援方法、家族支援、不登校支援についてもお話をお聞きし、自身の考えを深める機会となりました。講義の後にはグループワークを行い、今よりもっと家族に寄り添うための工夫や機関連携のための工夫を話し合いました。多くの事業所の皆さんに参加していただきありがとうございました。

## ●札幌市自立支援協議会子ども部会・札幌市児童発達支援センター会議共催 全体研修

前日から大雪警報が発令され、札幌市内でも交通の混乱が生じる中、1月26日当日に急遽会場参集とオンデマンド配信のハイブリッドへと変更し開催しました。約130名の申し込みがあり、会場には約60名の参加がありました。「子どもの育ちを支えるためのご家族への寄り添い方」をテーマに、札幌市障害福祉課の森本氏による講演が行われました。続くシンポジウムでは、児童発達支援センターさんりんしゃの京谷氏、札幌市通園児父母連絡会の北方氏より話題提供があり、森本氏から助言をいただきました。講演では、家族の強みを信じ、方向性を共に考えながら築いていくことの大切さや、「ほめる」「ねぎらう」「承認する」といった姿勢をもって丁寧に話を聴くことなど、現場で求められる支援の在り方についてお話がありました。シンポジウムでは、ご家族の大変さや保護者の率直な思いを直接うかがうことができ、あらためて「寄り添う支援」の重要性を再認識する研修となりました。

## ●巡回系事業 情報交換会

2月2日に巡回・訪問系支援に関わる担当者が集まり、各事業の目的や役割、実践上の工夫について共有しました。現場に出向くことで子どもや支援者の実情を丁寧に把握し、早期に課題へ対応できること、また個別支援にとどまらず園や学校等の組織全体を支える視点が重要であることが改めて確認されました。さらに、訪問の進め方や連携方法、記録・報告の在り方について意見を交わし、地域全体で切れ目のない支援体制を築く意義を共有する機会となりました。

## ●札幌フロンティアライオンズクラブ協賛研修会

札幌フロンティアライオンズクラブ様にご協賛いただき、2月27日エルプラザにて「話す・聞く・伝える力を育てるかわり」について、言語聴覚士の視点から旭川市立大学短期大学部幼児教育学科 熊田広樹教授よりご講義いただきました。参加対象をこどもに関わっているすべての方とし、行政・保育・教育・療育機関と様々な機関より約170名の方にご参加いただきました。

熊田先生のエピソードを交えながらの講義では、子どもの「からだ」と「こころ」と「ことば」は切り離すことができないこと、「ことば」を育てるためには土台となる「からだ」と「こころ」を育む必要があること、それが「発達を支援する」ということであるとお話いただきました。あそびのなかで子どもたちが抱く「伝えたい」「わかってほしい」という思いに保育者や支援者がどのように寄り添えると言葉の発達や自己肯定感の育みにつながるのか、学びを深めることができました。



## ◎札幌市子ども発達支援ガイドブック

2025年度は【学齢期版】を改訂しております。

札幌市のホームページでご確認  
いただくことができます。

